

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

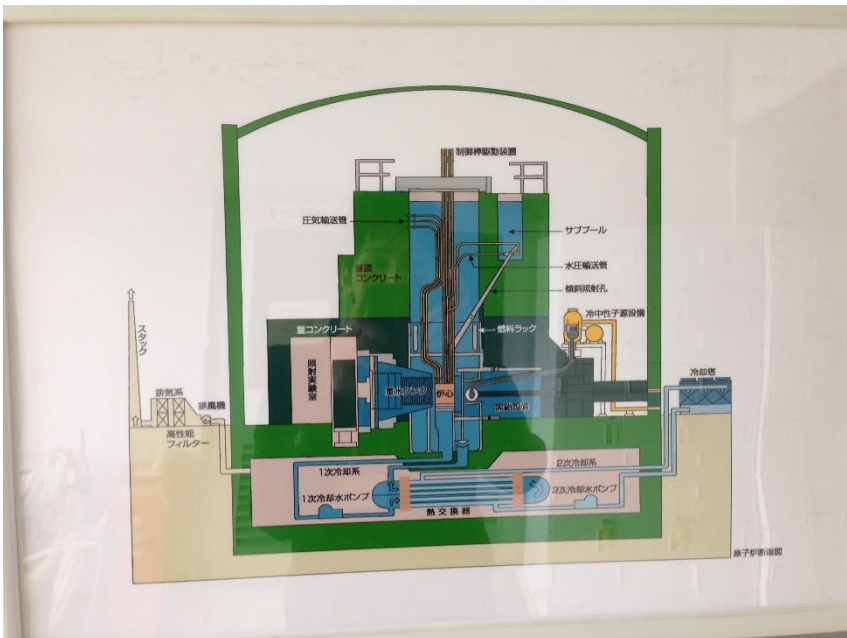
平成 27 年 4 月 12 日	
所属部局・職	霊長類研究所、社会生態分野、修士 2 年
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
京都市動物園、生態学研究センター、原子炉実験所、瀬戸臨海実験所、霊長類研究所、日本モンキーセンター
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
インターラボ
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 4 月 8 日 ~ 平成 26 年 4 月 11 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。
<p>インターラボ実習は、京都大学に入学した理学研究科の新入生に、京大が保有する研究施設を訪問するなかで、広範囲に渡って先端的な研究の視点を養うことを目的として、4月8日から11日までの4日間に行われた。また、今実習は、学生にとってマクロ・ミクロ研究分野の垣根を取っ払った、重要な交流の場となった。見学した研究施設は、原子炉研究所、瀬戸臨海実験所、京都市動物園、生態学研究センター、霊長類研究所、日本モンキーセンターである。以下に各施設についての実習概要を簡単に紹介する。</p> <p><u>原子炉研究所</u></p> <p>初めに先生方から、原子炉を利用した核エネルギーと放射線の研究について紹介があり。次に、施設の中に案内され、原子炉がどのように管理され、また研究や医療に利用されているのかの説明を受けた。</p> <p><u>瀬戸臨海実習</u></p> <p>紀伊半島南西部沿岸、和歌山県白浜町、多様な生物が生息する美しい海辺に、瀬戸臨海実験所は存在する。この場所で伝統的に行われてきたのは海産脊椎動物の分類、系統学であるが、現在では生態学的研究も行われている。また、敷地内に水族館を有しており、白浜周辺の海にすむ約500種類の海産生物を観察することができる。びっくりするくらい大きな魚から、奇妙な無脊椎生物まで、幅広く楽しむことができた。そして、夜の懇親会では、分野問わず混ざり酒を飲み、大いに交流を図ることができた。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



原子炉装置



原子炉装置の立体図

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



浜から見える景色



漂うクラゲたち

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



カニ



エイ



ウツボ



夜の浜辺で発見した、発光性のプランクトンによる青い光

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

京都市動物園

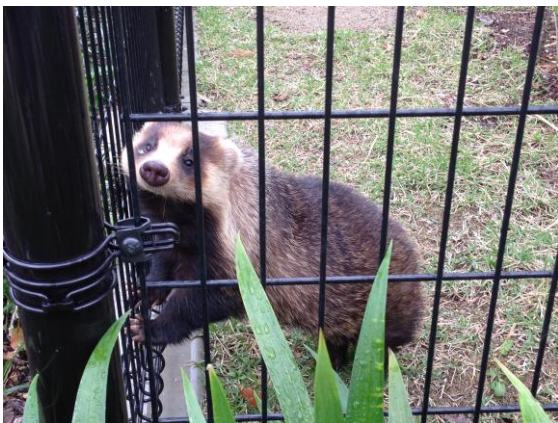
田中さんのガイド付きで動物はもちろん、動物園の歴史や裏側のお話を聞くことができた。京都市動物園は上野動物園に次ぎ、日本で2番目に古い動物園であり、長い歴史を持つらしい。その日はあいにくの雨ではあったが、大型の動物を間近で見ることができたのは大変うれしかった。観察できる時間が短かったので、もう一度来たいと思う。



穴を掘るキツネ



巣から顔を出すリス



ヒトに興味を示すタヌキ

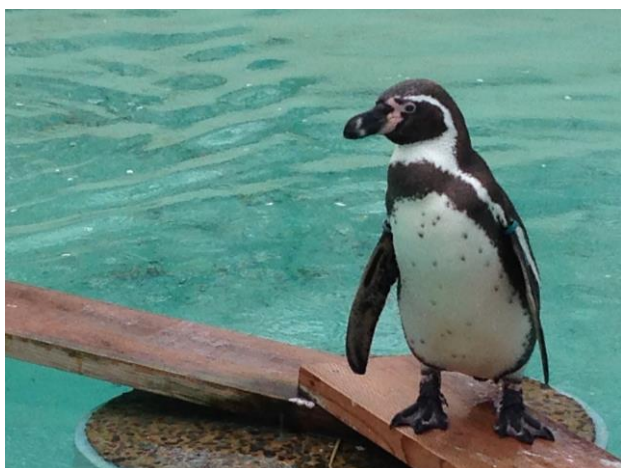
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



床暖房の上でうづくまる、雄ライオンと雌ライオン



トラ



木の橋を渡るペンギン

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

生態学研究所センター

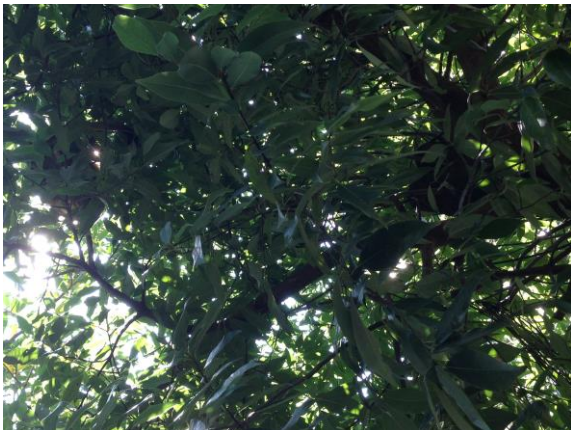
生態学研究所では、水域生態学、熱帯生態学、陸域生物相互作用、分子生態学、理論生態学、保全生態学と幅広く生態学の研究が行われている。実際に研究所を案内され、院生やポストクの比較的若い方からお話を伺う機会が多かったため、非常に質問もしやすく、研究に対する大事な指針もいただいた。

霊長類研究所

私にとっては、それなりに馴染んだ場所ではあるが、それでもやはり発見はあるものである。実験動物としてのニホンザル、アカゲザル、コモンマーモセット等の紹介。それらを用いた先端医学研究と霊長類研究所の役割。研究所案内される中で、高次脳分野の中村先生の見識に触れ、思考言語分野の松沢先生の本を手にとった。これから時間を見つけて、身近な先生方の書物を拝読しよう。

日本モンキーセンター

JMCは世界で最も多く、約70種の霊長類種、1000頭が観察できる場所であり、博物館としての役割を持つ公益財団法人である。キュレーターの高野さんより霊長類学と日本モンキーセンターの歴史について説明をいただいた。その後、各自動物園を回った。土曜日というものもあり、多くの方が動物園を訪れていた。ただ時間があまりになかった、近所なのでもう一度来ようと思う。



木に潜むリスザル



ワオキツネザル

6. その他 (特記事項など)

PWS リーディングプログラムより支援を受け、今実習を行いました、誠に感謝します。